

第 75 回文化祭

westart

テーマに込めた想い

75 回という節目に、アクリエひめじという新たな会場で、さらにグレードアップした文化祭として新たなスタートを切るという決意

西高の「芸術」を作り上げるという決意

目次

Part 1

文化祭の概要..... 1

プログラム内容..... 2

Part 2

準備について..... 5

Part 3

スピーチコンテスト..... 8

階段アート・文化部展示..... 9

学年展示..... 10

Part 4

ミニフェスティバル..... 11

生徒会の働き..... 14

Part 5

オープニングプロジェクト..... 16

学年劇..... 17

最後に..... 20

文化祭の概要

姫路西高校の文化祭は2日間に分けて開催されます。

【1日目（姫路西高校体育館）】2022年4月14日（木）

オープニング・スピーチコンテスト本選・文化部展示・学年展示（新2年）・SSH 発表会・図書館開放・ミニフェスティバル・スタンプラリー

【2日目（アクリエひめじ）】4月15日（金）

オープニングプロジェクトによるオープニング・文化部ステージ・学年劇・幕間仕事人・エンディング

文化祭では毎回テーマ・ロゴデザイン・Tシャツを作っています。

テーマ

westart

全校委員長 上田蒼大郎考案（意味は表紙に記載）

ロゴデザイン

75回生 矢橋葉名さん制作



Tシャツ



文化祭 Tシャツは、生徒会執行部とその他の役職で色が異なり（左画像はどちらも生徒会役員）、当日何かの仕事に当たっている生徒が着用することができます。

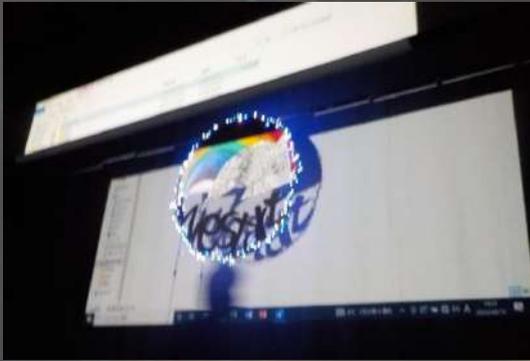
前プリント：75回生 松浦鈴子さん制作
後プリント：文化祭ロゴデザイン

プログラム内容

1. オープニング（1日目）



1日目オープニング映像（上画像）
ロゴが出現している様子（下画像）



オープニングは文化祭中に2回あり、1日目は生徒会執行部の担当者、2日目はオープニングプロジェクトチームが作成します。

1日目は吹奏楽部による華やかなファンファーレ演奏から始まり、その後生徒会執行部作成のオープニング映像が流れます。第75回文化祭は節目ということもあり、西高の歴史を辿った約2分のアニメーション映像でした（左上画像）。映像が終了しロゴデザインがスクリーンの裏から出現したとき（左下画像）は、会場が全校生徒の拍手に包まれました。

オープニング映像が終了した後、教頭先生の威勢の良い開会宣言があり、学校長挨拶、全校委員長挨拶、テーマ説明へと続きます。

2. SSH 発表会（1日目）

令和3年度の海外研修はコロナ禍で中止となりましたが、エンパワーメントプログラムは実施されたため、その報告会が行われました。また、2月に実施したSSH（スーパーサイエンスハイスクール）成果発表会における様々な研究テーマ発表の中から代表グループのプレゼンテーションも行われました。

3. 総合司会（2日目）



文化祭2日目の進行を務めます。文化委員長と確認を取り合いながら舞台を取り持ち、会場の雰囲気と和ませつつ円滑に進めます。舞台転換に時間がかかる場合は事前に用意していたクイズなどを行います。

総合司会者が場をつないでいる様子（文化委員長目線）

4. ^{まくあい}幕間仕事人（2日目）



アクリエひめじでのパフォーマンス
漫才「センシティブボーイ」(左)
ダンス「Seventeen」(右)

ステージの間を取り持つ係です。幕間仕事人は、「準備について」にもあるように、オーディションで選ばれたグループ2組のみ担当することができます。今年は漫才のコンビとダンスのトリオが見事オーディションに合格しました。漫才では会場が大きな笑い声で溢れ、ダンスの時は素晴らしい表現に圧倒されました。

5. 文化部ステージ（2日目）



バトントワリング部 (左)
室内合奏部 (右)



音楽部 (左)
箏曲部 (右)



ギター・マンドリン部 (左)
吹奏楽部 (右)

※プログラム順

2日目はアクリエひめじで開催されます。ステージで発表を行うのはプログラム順に「バトントワリング部」「室内合奏部（この中で室内合奏部・音楽部・吹奏楽部の合同合奏あり）」「音楽部」「箏曲部」「ギター・マンドリン部」「吹奏楽部」の計6部活です。どの部活もそれぞれの個性を發揮した素晴らしいステージとなっており、とても見ごたえのあるものでした。

6. エンディング（2日目）



エンディングの映像からのキャプチャ（上3枚と左下2枚）

文化委員長挨拶（右下）

エンディングではまず映像が流れます。映像は生徒会執行部のエンディング担当者が制作します。エンディングは各プログラムの練習風景や前日準備、各クラスの写真、生徒会執行部からのメッセージなどがまとめられた映像で、BGMと共に流れる感動する演出になっています。映像が終わると、例年は文化祭を盛り上げた裏方（劇団の黒子や生徒会執行部など）が舞台上に上がって校歌などを全校生徒で歌い幕を閉じるのですが、今年は昨年と同様コロナ禍での開催だったため、生徒会執行部のみが舞台上に上がり、文化委員長が挨拶して幕を閉じました。コロナ禍の制限を一番感じたのはここですが、文化委員長としては制限によって窮屈に感じたことは少なかったし、最高の文化祭を作り上げられたと思っています。

準備について

大まかな文化祭準備の過程を紹介します！

大まかな時期	準備内容
10月下旬	生徒会執行部内で担当決め
11月	<u>テーマ・ロゴデザイン決定・各役職募集</u> 年によって異なりますが、第75回ではテーマは生徒会執行部から、ロゴデザインは新3年生（75回生）から募集しました。早い時期ですが、この時期には文化祭の準備がすでに始まっています。
12月中旬	<u>応募締め切り・役職ごとのオーディション</u> 応募を締め切ったら、ミニフェスティバル・ミニフェスティバル司会は12月中旬にオーディションを行います。
1月中旬	<u>階段アート（新企画）デザイン案募集（全校生徒対象）</u> 文化祭では、年によって異なりますが、全校生徒で制作できるものを作る「新企画」を行います。第75回では、階段アートを制作しました。デザイン画は76回生の樋口直太櫓さんの作品です。
1月下旬	<u>役職ごとのオーディション</u> 学年劇のキャスト・総合司会・幕間仕事人のオーディションを行います。審査基準に達する応募者がいなかった場合は二次募集を行うなど、妥協することなく選考します。
2月上旬	<u>Tシャツのデザイン決定</u> デザイン考案者と生徒会執行部が話し合いながら配色やバランスを決定します。 <u>スピーチコンテスト二次予選</u> 先生方と生徒会執行部の担当者の審査によって本選出場者を決定します。参加する弁士は巧みな語り口で聴衆を引き込みます。
2月中旬	<u>学年展示大枠決定</u> 新2年生（76回生）がクラスごとに行う学年展示では、各クラスの個性が光った作品が毎年披露されます。ここで展示のコンセプトや大枠を決定します。第75回はコロナ禍の影響で動画作品のみでしたが、動画を放映するだけではなく教室のレイアウトや装飾を工夫することで普段の教室とは一

	風変わった雰囲気になります。
2月下旬	<p><u>Qシート提出</u></p> <p>2日目のステージに出演する団体は、Qシートという照明や音響のタイミングが書かれている書類を作成する必要があります。アクリエひめじの舞台スタッフの方に各団体の演出案をここで一度提出します。打ち合わせ(下記)の資料づくりのようなものです。</p> <p><u>Tシャツ申込開始</u></p> <p>生徒会執行部から申込用紙を配布し、購入希望者を募ります。</p>
3月中旬	エンディングに使用するクラス写真を撮影
3月下旬	<p><u>要項・プログラム作成</u></p> <p>要項自体は12月あたりから作っていますが、完成するのはこれくらいの時期です。文化祭は要項をもとに動くので、とても大事な要素となっています。プログラムは、全校生徒や保護者に配布する各団体の紹介文も入ったものです。業者の方と打ち合わせを何度も重ねながら制作していきます。要項・プログラムの作成担当は生徒会執行部です。</p> <p><u>各役職制作・練習開始</u></p> <p>学年末考査が終わり春休みに入ったら、本格的な準備がスタートします。学年劇ではキャストの練習(数回の専門先生の指導含む)や大道具・小道具・衣装の制作を、オープニングプロジェクト(2日目のオープニング制作チーム)は映像やモニュメントの制作を、展示を行う団体は展示物の制作など、それぞれの担当する場所の準備を行います。</p> <p><u>学年展示準備開始</u></p> <p>撮影などの準備ができるのは春休みに入ってからです。1年前、入学したての頃に見た学年展示のクオリティに憧れて制作に力を入れる生徒も多いです。</p> <p><u>アクリエひめじスタッフとの打ち合わせ(1回目)</u></p> <p>文化祭2日目のステージであるアクリエひめじで、スタッフの方々と各団体の担当者が、事前に作成していたQシートをもとに打ち合わせをします。スタッフの方々がアドバイスをくださったり私たちのイメージを口でお伝えしたりできるいい機会になっています。</p>
4月上旬	<p><u>体育館で2日目プログラムのリハーサル</u></p> <p>文化祭2日目のプログラムを通します。実際に舞台の配置やこの時に生徒会執行部が時間内に収められているか、Qシートの内容に無理がないか</p>

	など細かいところの確認をしたり、総合司会が紹介文を考えたりします。 アクリエひめじスタッフとの打ち合わせ（2回目）
4月13日（前日）	主に1日目の準備をします。文化部展示・学年展示の準備（会場設営や映像確認など）、ミニフェスティバルの準備、オープニングの流れ確認、体育館設営（オープニングとスピーチコンテストの会場）などを行います。オープニングの準備は主に生徒会執行部が行いますが、21時頃まで生徒会や学年の先生方に付き合ってください念入りに準備をしました。
4月14日 （文化祭1日目）	1日目は校内で開催されますが、2日目の仕込みを行うため、2日目出演者は該当時間になったらアクリエひめじに行きます。仕込みの内容は、実際に演技をしたり、照明や音響の確認をしたり立ち位置にバミリをするなどです。仕込みが時間通り円滑に行われるようにアクリエひめじのスタッフの方々や生徒会執行部の担当者がサポートをします。

スピーチコンテスト

西高の全生徒が自身の語りたいことを各クラスで発表し、代表の1名が、2次予選に参加する。2次予選では、先生方や生徒会役員が審査員になり、通過できた猛者だけが文化祭1日目のスピーチコンテストに出場できる。

今年のスピーチコンテストは、2年前からコロナ禍により縮小されていた規模を元に戻すことに努めた。本選出場者の人数を5名から7名に戻したり、全校生徒の投票によって受賞者が決定される「特別賞」を復活させたりなどだ。コンテストでは、授業中にギャグをして滑り、心をすり減らす先生方を救済する制度の提案をする発表者、電車内でトイレを我慢する苦しさや焦燥感に苛まれるあの時間を講談調の話し方でその場に作り出し、会場を引き込んだ発表者など、7名が洗練されたスピーチを行った。その7名から審査員評価1位の最優秀賞、2位の優秀賞、そして前述した特別賞の受賞者のお名前と一言コメントを載せておくのでご覧いただきたい。



最優秀賞 岡本拓己さん

陰キャでも羽伸ばせるので

頑張らしましょう。

最初は怖いと思うのですが、1回キメるとトリップするとか、もうこの快感無しには生きていけなくなるので皆さんも是非



優秀賞 石原葵さん

俺こそ
森羅万象



特別賞 阿部伊吹さん

階段アート・文化部展示

階段アート

今年度の新企画として実施されました。

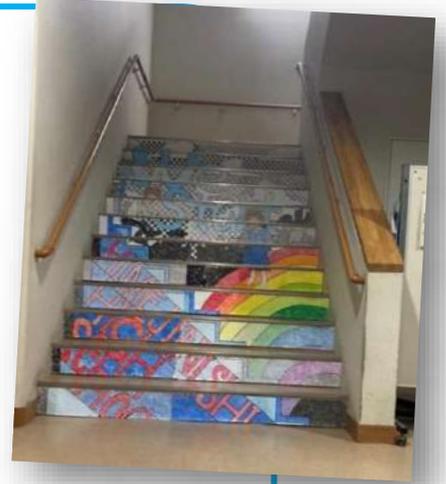
図案は、文化祭のテーマ"westart"を基に

76回生の樋口直太君によって考案されました。

全校生徒で作業を分担し、右の写真のように

綺麗に完成させることができました。

文化祭1日目に、いつもは飾り気のない階段を華やかに彩りました。



文化部展示

各文化部が日ごろの活動の成果を教室や廊下で展示を行いました。制作した物を展示したり、実験を行ったり、生徒へのアンケートの結果を掲示したりしました。

また展示に並行して、スタンプラリーを実施し、スタンプを集めた生徒に、葉が贈られました。



学年展示

文化祭1日目に2年生は旧クラス(1年生のクラス)で出し物を行う。今までは特に制限は無かったが、昨年度から新型コロナウイルスの影響で接触を避けるようになり映像作品が主流となった。今年度も全クラスが映像作品を創った。ここで「全クラスが映像って同じようなものばかりで面白いの?」という疑問が生まれてくるかもしれない。これにははっきりと応えられる。面白い!ひとくくりに映像と言えど、バラエティーやドラマなど様々な種類がある。クラスごとの色がある。同じようなものは一切ないのだ。

驚くべきことに映像は2年生が一から撮影・編集等を行っている。クラスによっては数10分にも及ぶ映像を寝る間も惜しんで創る。なぜそこまで頑張れるのか。これは私の考えだが、彼らにとってその映像はみんなに披露するためだけのものではなく、一生残る思い出として捉えているからではないだろうか。入学してからの全てを共にしてきた仲間との1年間の集大成、思い返すだけでもこみあげてくるものがある。

残った映像は後輩たちにも受け継がれて道しるべとなる。今の2年生が1年前に先輩方に魅せてもらったように。こうして西高では伝統が受け継がれていくのだ。これもまた何か1つの作品のようなものなのかもしれない。



実際の上映の様子

ミニフェスティバル

熱狂の渦を創り出した2時間

文化祭 1日目に開催されたミニフェスティバルは、社会情勢が少し落ち着いてきたこともあり、様々な制限はあるものの例年通りに近い開催となりました。開催の15分前になると体育館の正面入り口にはぞくぞくと人が集まってきて、その全員がミニフェスティバルの開催を楽しみにしている空気が広がっていました。昨年とは異なり、今年では会場の人数制限はなく、見たいグループをいくつも見るというかたちで開催することができ、開場してすぐに満席状態になっていました。「The Dangerous Tour At Nishi」によるキレと迫力のあるダンス、「Accelerando」による観客も巻き込んだリズムカルなピアノ連弾、2年生で構成されたバンド「FOGETMENOT」による音楽への愛があふれる演奏、昨年のミニフェスティバルにも出演した3年生のバンド「Champignons」の迫力ある演奏。どのグループのパフォーマンスも熱気にあふれており、見ている私たちの興奮も最高潮に達していました。その光景はミニフェスティバルというより大型ライブのようで、観客はもちろん、ステージでパフォーマンスをする出演者も全員が笑顔で思いっきり楽しんでいる様子でした。そしてミニフェスティバルはその場にいた全員が笑顔で幕を下ろしました。

バレーボール部、陸上部をはじめとして、生徒や先生方のご協力により、今回のミニフェスティバルを成功させることができました。

以下は、ミニフェスティバル当日に読まれた各団体の紹介文と当日の写真です。

「The Dangerous Tour At Nishi」

マイケル・ジャクソンといえばムーンウォークと思っている人が多いと思いますが、実は一体感もマイケルの魅力です。ゆえにバックダンサーを募ったのですが、皆「無理」と即答で、1人で踊ることになった次第です。中学のころから踊り続けてきたこともあり、ダンスに自信もあるので、見に来てよかったと思ってもらえると思っています。ぜひ楽しんでみてください。



「Accelerando」

こんにちは！Accelerandoです。一見ピアノなんか弾けなさそうな男子二人でピアノ連弾をします。今回演奏するのは、計3曲。聞いた音があるメロディーが連なっていく「Club IKSPIARI」（クラブイクスピアリ）、「ドレミの歌」がモチーフの「Do-Re-Mi」（ドレミ）、つつい乗ってしまいそうなリズムが特徴の「On y va!」（オニバ）の3曲となっています！聞いたことがあるメロディーも、聞いたことがないメロディーも全部楽しめるので、ぜひ皆さんも手拍子をして一緒に盛り上がりましょう！



「FORGETMENOT」

こんにちは FORGETMENOT です。フロントマンの茂末が中心となって結成したバンドで、メンバーは全員2年生です。今日このようなステージを設けてくださったことに心から感謝します。僕たちが持つ音楽への愛が皆さんに伝われば良いなと思っています。楽しんでもらえたら嬉しいです。よろしくお願いします。



「Champignons」

Champignons です。廣野耀子、田中美穂、金鹿梨乃、山本喜一、金澤菜都、黒子風大、壺阪凜の7人構成です。昨年度も出場させていただきましたが紆余曲折を経て一部メンバーが変わっています。



さて、メンバーの意外な一面、特徴

などなどを紹介していきます！まず、ドラムの金澤菜都はこう見えて全校委員長でした！ベースの田中は大人しい顔をして水上バイクに乗れます！バイオリンの金鹿は陸上ガチ勢。同じくバイオリンの黒子は競技かるたガチ勢！ギタボの廣野はちゃんと真面目です！ギターの山本には残念ながら意外性がなく、ただただすごく良い人です(本人談)！最後にキーボードの壺阪よりメッセージです。薬指の第一関節にしわがなく曲がりません。仲間がいら



っしゃいましたら教えてください。「Shout Baby」、
「ベテルギウス」、「残響散歌」、「透明人間」の4曲をしますが時間の関係上一部省略していることをご了承ください。いよいよ最後となりました。盛り上がっていきましょう！！

文化祭における生徒会役員の働き

文化祭は生徒会が企画、運営しました。開催の約半年前、第150代生徒会発足と同時に文化祭に向けての準備が始まりました。生徒会役員の中で全体統括、学年劇、学年展示、文化部展示、1日目オープニング(OP)、2日目OP、2日目エンディング(ED)、ミニフェスティバル、スピーチコンテスト、新企画(階段アート)という担当に分かれていて、春休みに入るまでは各担当が企画の運営準備を行いました。春休みに入るまでに行われたおまな文化祭準備としては、ミニフェスティバルのオーディションやスピーチコンテストのクラス予選、二次予選がありました。いずれも生徒会担当者が運営を行いました。春休み以降は徐々に各団体の責任者に進行のほとんどをゆだねる形をとりました。その代わりに春休み中は手の空いた生徒会役員は仕事が過多であった2日目の文化部ステージの仕事を手伝っていました。ただし1日目OP、2日目OPは仕事が本格化し、自分の仕事に集中していました。

そして時は進み文化祭前日、4月13日にはミニフェス、学年展示、文化部展示の最終調整、階段アートの準備、ロゴの取り付けを行ってから1日目OPのリハーサルを日が暮れるまで行いました。そして翌日、吹奏楽部のファンファーレで第75回文化祭は幕を開けたのです。1日目OPでは生徒会役員はそれぞれの持ち場について仕事をしていました。個人的な話をするとすばらしいOP映像の後にロゴが出てきたのは感動しました。その後開会式、スピーチコンテストを行いました。スピーチコンテストでは生徒会役員数名も審査員として参加しました。スピーチコンテスト終了後、学年展示、文化部展示を行いました。これに関して当日の仕事は片付けぐらいだったのですが、同時進行で文化祭2日目のアクリエひめじでの文化部ステージに向けての仕込みを行いました。午後からは本校体育館にてミニフェスティバルを開催しました。ミニフェスティバルでは観客の誘導、進行、記録などを、生徒会役員をはじめ係の生徒数名が行いました。学年展示、文化部展示終了後、学校待機中の生徒会役員全員でアクリエひめじへ移動して2日目OPのリハーサルを行いました。そして迎えた文化祭2日目、生徒会役員の最初の仕事は一般生徒の誘導でした。一般生徒が入場した後は、各ステージでの時間管理、各団体の誘導などそれぞれの仕事に当たっていました。この時の生徒会役員の大半は1日目で担当の企画が終了し、終始リラックスした表情で文化部ステージを楽しんでいたように思います(文化委員長、全校委員長、2日目ED担当除く)。文化委員長、全校委員長、2日目ED担当はEDが終わるまで不安で仕方がなかったと思います。しかし、EDは無事成功に終わり、観客からの盛大すぎる拍手を受けて心底報われた気がしました。



幕間仕事人オーディション



文化祭前日準備



文化祭前日準備



文化祭前日準備



スピーチコンテスト（消毒）



文化祭2日目への準備（トラック積み込み）



会場仕込み



文化祭2日目舞台袖

2日目オープニング

大まかな流れ

10月～11月 2年生からメンバー募集
 12月～1月 1年生からメンバー募集
 ～2月 2年生を中心に構想を練る
 春休み 構造物制作、映像制作
 文化祭1日目午後 舞台上でリハーサル、最終調整
 文化祭2日目 本番、片付け



そもそも2日目オープニングって？

大きな構造物(2022年は聖火台、2021年は電車)と映像を組み合わせて一つの作品に仕立てる、一大プロジェクトです。**役者のセリフが無いのが特徴**で、構造物と映像と音響の組み合わせで成り立っています。

メンバーには色々な人が集まってきます。

- リーダーシップがある人
- 映像制作が得意な人
- 工作が好きな人

のように、挙げればキリがありません。

(注) 単に「オープニング」と言うと「1日目オープニング」と「2日目オープニング」の2つを指してしまうので、使い分けが必要です。

(左上)アクリエでのリハーサルの様子。多くの人が携わっているのが分かります。

(右上)聖火台と校章ロゴのアップ。

(右下)本番直前の舞台。独特な緊張感が漂っていました。

(写真は全て筆者撮影)



文化祭自体のテーマ「westart」をベースに、私達が考えた「聖火リレー×ドラゴンクエスト」のコンセプトで作られました。

勇者が仲間を引き連れ、魔王の住むアクリエひめじへ。様々な困難を乗り越え、聖火を繋げることはできるのか。全貌は是非DVDでどうぞ。

第75回文化祭は初のアクリエひめじ開催でした。そのため劇団や文化部同様、文化センター時代の記録しか無い中での制作でした。様々な困難を乗り越えて、2日目オープニングスタッフ一同「素晴らしい作品を作りたい」との思いで取り組みました。

2日目オープニングは観客の皆さんがいてこそこの物です。私達と仕事をするのもよし、観客席から感動を味わうのもよし。どう楽しむかはあなた次第、そこが一番の魅力ではないでしょうか。



学年劇

About — 学年劇とは

姫路西高校の文化祭では、新3年生が2つの劇団に分かれてオリジナルの演劇を披露するのが伝統になっています。学年劇はテーマ決定から細部の演出に至るまで生徒主体で進められる、文化祭の一大プロジェクトです。ここでは、第75回文化祭で結成された2つの劇団をご紹介します。

劇団『オッド』旧2年1組・3組・5組 演目『奇しき祭りの夜に』

舞台はある夏祭り。高校生の里奈は演劇部のみんなとお祭りの舞台上で日本舞踊を披露することになる。そんな時里奈はお面をつけた少年を発見する。少年の後を追う里奈は違う世界に迷い込んでしまうが…果たして里奈の行方は…？



シナリオの抜粋
(オッド)

劇団『サネカズラ』旧2年2組・4組・6組・7組 演目『落花流水』

真葛高校・演劇部では今日も稽古が行われている。演目は『源氏物語』だ。部活に熱心に取り組む心から芽生えてくるのは小さな恋心。交差する恋への葛藤。そこに演劇の成功に関わる問題が発生してしまい……!? 演劇部たちの恋の行方はどうなるのか。これを読んだあなたはもう、真葛高校の生徒の一員です。

Schedule — 第75回文化祭 学年劇ができるまで

2021年

11月下旬 役職決定 団長をはじめ、劇団の中心となるメンバーをクラスで選出します。役職については下に詳しく記載しています。

12月上旬 シナリオ会開始 団長・副団長・シナリオライターで構成される「シナリオ会」が始まります。時間をかけ、劇のテーマや方向性を話し合います。ここで決まった内容をもとに、冬休みにシナリオライターがシナリオを書き、それを踏まえて改訂が加えられていきます。シナリオの修正はなんと本番直前まで続きます。

2022年

1月下旬 キャストオーディション キャスト（演者）をオーディションで決定します。シナリオ会のメンバーをはじめとする審査員が定めた基準をもとに、幅広い観点から審査します。

3月上旬 企画部活動開始 大道具・音響・照明は会場スタッフの方との打ち合わせの都合上、早い段階から書類作成などの準備を行います。これら以外の担当も、製作の計画を立てるなど、春休みの作業に向けて準備を整えていきます。



シナリオ会（サネカズラ）

3月中旬 キャスト練習開始 演技の練習が始まります。まずはゲームなどを通じて信頼関係を深め、それからセリフの練習、演技の細かな調整と順を追って進められます。プログラムを考え、練習をまとめるのもシナリオ会のメンバーをはじめとする生徒です。なお、外部の先生にお越しいただいてアドバイスをいただく機会が計5回あります。プロ的を射たご指摘によってシナリオが大きく変わることも少なくありません。



キャスト練習 (オッド)

春休み 準備本格開始 制作部も含め、すべての部門で準備が始まります。部活動をおろそかにしないため、準備や練習は原則として午前中に限られます。本番が日に日に迫る中、人材や知識をフル活用して全力で取り組みます。また、春休み中には会場であるアクリエひめじのスタッフの方との打ち合わせが2回あります。スタッフの方に演出の希望を伝え、確認や修正をしたり、助言をいただいたりします。

4月14日 (木) 会場仕込み 学校では文化祭1日目が行われている中、劇団メンバーはアクリエひめじ大ホールで大道具や音響・照明の調整、キャストの位置調整などを行います。劇団の持ち時間は1時間しかないため、団長の指揮のもとで手際よく作業が進められます。

4月15日 (金) 本番 アクリエひめじで行われる文化祭2日目こそが、劇団にとっての本番です。楽屋で衣装の準備やメイクを行い、上演開始1時間前からはリハーサル室で演技の最終確認をします。直前のプログラムが終了したら、幕間仕事人が場をつないでくれている間に素早く舞台をセッティングします。そして、緞帳が上がった瞬間、ついに劇団メンバーが創る最初で最後の舞台が文字通り幕を開けます。キャストの入魂の演技と、それを舞台袖で見守る団長からシナリオライター、道具類の準備などを担う企画部や制作部の緊張した面持ちは、何か月にもわたった準備や練習があらわれたものといえるでしょう。これを読んでいる在校生、もしくは未来の西高生のみなさんには、ぜひこの空気を味わってほしいと思います。

そして、緞帳が上がった瞬間、ついに劇団メンバーが創る最初で最後の舞台が文字通り幕を開けます。キャストの入魂の演技と、それを舞台袖で見守る団長からシナリオライター、道具類の準備などを担う企画部や制作部の緊張した面持ちは、何か月にもわたった準備や練習があらわれたものといえるでしょう。これを読んでいる在校生、もしくは未来の西高生のみなさんには、ぜひこの空気を味わってほしいと思います。

そして、緞帳が上がった瞬間、ついに劇団メンバーが創る最初で最後の舞台が文字通り幕を開けます。キャストの入魂の演技と、それを舞台袖で見守る団長からシナリオライター、道具類の準備などを担う企画部や制作部の緊張した面持ちは、何か月にもわたった準備や練習があらわれたものといえるでしょう。これを読んでいる在校生、もしくは未来の西高生のみなさんには、ぜひこの空気を味わってほしいと思います。



舞台での演技 (オッド)



舞台袖で見守る企画部・制作部 (サネカズラ)

上演中は、舞台袖の団長、客席後方の音響担当、調整室の照明担当が連絡を取り合い、それぞれ機器の操作や「Q出し」と呼ばれるタイミング指示を行います。40分間のストーリーが終了すれば、劇団メンバーが順番に舞台に登場し、最後に客席に一礼します。緞帳が再び下りると、舞台裏は客席とはまた違った感動に包まれます。

上演終了後、大道具は会場で解体し、備品は学校へ運搬します。こうして劇団の活動は終わりを迎えますが、劇団での出会いを機に仲良くなる生徒も多くいます。



上演後に頭を下げるメンバー (サネカズラ)

Staff ー学年劇に携わる人たち

団長（1名） 劇団の責任者です。キャスト練習を進めたり、企画部と連携して準備の計画を立てたりと、劇団全体を見渡し、メンバーを引っ張る立場です。リーダーシップや広い視野が求められます。

副団長（2または3名） 団長とともに劇団運営の中心となります。それぞれが企画部を分担して受け持つこともあります。

シナリオライター（1から3名程度） 劇の出来栄を決めるともいわれるシナリオを制作します。書いて終わりというわけではなく、本番直前までメンバーと話し合っって改訂を続け、演出にも関わる重要な役職です。

キャスト（15名程度） 舞台上で演じる人をいいます。セリフを覚えるという難しさもありますが、キャラクターになりきるために大きな努力を重ねます。

企画部（21または28名） 各クラスから7名を選出し、大道具・小道具・衣装・化粧・音響・照明・会計の7種類に分かれます。予算や資材、時間が限られる中、いかに完成度の高いものを創るか試行錯誤します。春休みから本番まで、役職によっては本番終了後も仕事があり、決して楽ではありませんが、その分やりがいも大きなものです。

制作部（多数） 大道具・小道具・衣装の3種類があり、企画部の指揮のもとで実際の作業を行います。上記の役職に所属しない生徒は制作部になります。また、本番で舞台の転換作業にあたる黒子なども制作部の中から選ばれます。



大道具の製作（オッド）



小道具の製作（オッド）



制作部のミーティング（サネカズラ）



リハーサルで調整をする音響担当（サネカズラ）

人数は目安であり、年度によって多少異なります。

なお、生徒会は、劇団と学校やアクリエひめじとの間に立って調整を行うほか、資料作成など事務的なサポートを担います。

また、各劇団には顧問として先生がついておられ、劇団運営についてのアドバイスをくださいます。

最後に……

ここまで読んでいただきありがとうございました！

「westart」というテーマのもと始まった文化祭。このテーマには、表紙に書いた通り、文化祭で西高の芸術をつくる。新たなスタートを切るといった意味が込められています。在校生の皆さんには新しい風を感じていただける文化祭になったと思います。

1日目に行われたスピーチコンテスト・学年展示・文化部展示・ミニフェスティバル。そして、文化祭と同じwestartをテーマに掲げたオープニングから始まった2日目。文化部のステージ、学年劇。どれも本当に素敵で、一つ一つのプログラムが無事終わっていくのが、ほっとするのと同時に、少し寂しくも感じました。

この素晴らしい文化祭ができたのは、まぎれもなく75回生、76回生の皆さんが全力で文化祭準備に励んでこられたおかげです。本当にお疲れさまでした。

これを読んでいる方の中で西高に入学したいという方もいらっしゃるかと思います。どうか、西高の文化祭をこれからもどんどん素晴らしいものに、常に新しい風が吹く素敵なものにしてください。

最後になりましたが、このような時期に盛大な文化祭を開いていただき、また、成功に向けて力を貸してくださった先生方、長い時間打ち合わせを親身にして下さって、文化祭がより良いものになるように裏から尽力してくださったアクリエひめじスタッフの方々に多大なる感謝の気持ちを述べて、最後の言葉とさせていただきます。
(150代 文化委員長)

制作者紹介 (150代 生徒会執行部)

表紙・あとがき	濱本真衣 (文化委員長)
文化祭の概要	
プログラム内容	
準備について	
スピーチコンテスト	藤東拓志 (スピーチコンテスト担当)
文化部展示・階段アート	宮脇大和 (新企画担当)
学年展示	中塚悠 (学年展示担当)
ミニフェスティバル	高橋優太郎・平野琴音 (ミニフェスティバル担当)
生徒会の働き	和田智暉 (スタンプラリー・エンディング担当)
オープニングプロジェクト	安田晃志 (オープニングプロジェクト担当)
学年劇	上田蒼大郎 (学年劇担当)